

私は、5月30日から6月11日までの2週間、教育実習をしてきました。この学校は、部活動がとても活発で、運動部、文化部ともに全国レベルの部活動が多い学校です。私は今回、2年生の理系2クラスをメインに実習をさせていただきました。そのうちの1クラスではHR担任としても活動しました。私が教育実習に行くにあたって目標としていたことは、2つあり、1つ目が「生徒が意欲的に参加できる授業づくりがしたい」、2つ目が「生徒と信頼関係を築き、仲良くなりたい」でした。

主に担当していた2クラスの授業は、同じ進度で授業が進むように、事前に教科担当の先生が、配慮してくださったので、まず片方のクラスで授業を行い、次のクラスで授業を行う前に反省会を行い、次に授業をする際は、その反省点を修正して、改善し、同じ授業をもう片方のクラスで行うような方式で授業を進めていきました。ただ授業を行い、その授業について反省会を行い、それを踏まえてまた別の内容の授業を行うのと、同じ内容の授業を行うのとでは、全く別物であることが実習生同士の会話を通じてわかりました。同じ内容を2回繰り返すと、2回目の授業の方がやはり、説明の仕方や進め方がスムーズになり、生徒の反応や、つまづくポイントについても予測が立てられるので、説明をより丁寧に行う、板書の仕方を変えてみるなど、様々なことで修正ができたので、同じような学力の2クラスでも2回目の授業の方が同じ内容を進んでも毎回、5分ほど早く授業内容を進めることができました。この授業スタイルのおかげで一つの授業の質を高めるという点において自分自身、本当にとても成長できたように感じました。1つ目の授業で、自分は何が出来ていてまた何が出来ていないのかを知り、それを踏まえた上で、次の授業をより良いものにする。この授業方式は同じ実習生の中でも自分しか行っていなかったもので、教科指導担当の先生には本当に感謝しています。

実習中、自分が授業を行うにあたってこだわったことは、生徒が自ら考えることを大切にすることでした。生徒が、「なんで?」と疑問に思うその心を大切にし、そこから、数学を考えるその過程を重視し、先生側が一方向的に知識を与え続けることにならないように工夫をすることを心がけていました。加えて、その考えることを全員に行って欲しかったので、授業内の復習や、教科書の大事な箇所は生徒に音読してもらったり、生徒を指名して答えさせたりしていました。生徒の当てる順番をランダムにすることで、いつ自分が当たっても答えられるような授業の雰囲気を作ることを心がけていました。

教育実習で実際に生徒を目の前にして教壇に立って、授業を行ったことでの気付きは、元々、大学講義内の模擬授業でも本来の授業時間の50分間を丸々授業したことが無い中、生徒に数学をその時間内に教えることの難しさや、自分が想像しているように授業がうまく進むことは、まず無いということでした。大学での模擬授業では、経験することができなかった決められた時間で生徒に伝えたいことを伝えることの難しさ、急なイレギュラーに対応する状況判断の難しさ、生徒への指示の仕方、質問の投げかけ方など、本当にたくさんのことを学ぶ機会になりました。

人生初授業前の模擬授業では、初めてにしては、板書も綺麗で、声も大きく、実習生が初めに躓くようなポイントはほぼ完璧にできているとお褒めをいただき、とても嬉しく、自信がついたのを今で

も覚えています。元々、自分が現役時代、数学をととてもわかりやすく教えていただいていた先生が教科指導の先生だったので、とても話しやすく、その先生から褒められると、より自分の自信がつけました。教育実習生と言えど、生徒にとっては先生であり、自分が教えた数学の範囲の授業をまた他の先生が授業することはなく、自分が教えた知識が生徒にそのまま残るというその責任の重さを忘れることなく、先生として生徒に不安を与えないように堂々と授業を行うことを意識しました。私は人前で話すことにあまり抵抗がなく、緊張せず話すことに自信があったので、初めての本番の授業でも特に緊張することなく教材研究や板書計画、模擬授業など準備の甲斐あって、初めての授業は問題なく行うことができました。その後の授業では基本的なことが出来ることを前提として、授業にメリハリを付けたり、生徒が間違えた答えをどういった形で解説に授業に活かすのかなど、とてもレベルの高いところの指導をしていただきました。板書の際、色によっては筆圧を強くしたり、生徒の方を見ながら解説する、死角に気をつけ、生徒への配慮を忘れず、授業をすることは本当に大変で、一つのことを意識しすぎると、他のことが抜けてしまうので、それらのことを気にかけて、当たり前のように毎日授業をおこなっている現役の先生方を本当に尊敬しました。

2週間の教育実習が始まって3日目から授業を行い、研究授業までは1週間しかありませんでした。その中でたくさんの模擬授業や指導案作成、板書計画を行い、自分なりに反省や修正を繰り返しました。研究授業では、たくさんの先生方が見学に来てくださり、本当にたくさんの良いアドバイスをいただきました。研究授業は、自分が思う中で一番うまくできた授業でした。見学に来ていただいた先生方からいただく講評の中でもたくさん改善点や反省はあったもののその分たくさん褒めていただきました。その中で先生方から実習生でここまでの授業ができるのはすごいと仰っていただき、自分の頑張りや成長が認められた気がしてとても嬉しかったです。たくさん頂いた講評の中で、自分が最も印象に残り、その通りだと感じたのが、「生徒の目線に寄り添って行う授業スタイルと自分がこんなことを教えたいという思いがある授業スタイルの二つの中で、どちらかとゆうと、私の授業は自分がこんな風に教えたいとゆう気持ちが強く見える」と言う一言でした。自分は生徒に寄り添い、生徒のレベルにあった授業を心がけてきたつもりが、最後の方は自分の教えたいを押し付ける形になっていたことをご指摘いただき、自分自身その通りだとすごく腑に落ちました。今後はもっと生徒のことを考え、生徒に合った教え方や授業の仕方を工夫していこうと思います。

HR活動では実習期間中、実習校では球技大会が2日目に行われたので、担当クラスの生徒とは一気に仲を深めることができました。コロナ禍で生徒がマスクをつけている中でも、生徒の名前をいち早く覚え、挨拶をしっかりと行うことが生徒と近づく第一歩だと考えていたので、とにかく積極的に生徒と関わり合う機会を増やし、生徒との信頼関係を築くことに励みました。そのおかげもあって生徒が意欲的に話しかけてくれることが多くなり、授業の際もすごく良い雰囲気の中、授業が行えたと感じています。生徒は顔や名前を覚えられることを自分が想像していた以上に喜び、そこから信頼関係が作られていくのだと改めて実感しました。

この教育実習を通して、実際の高校生と関わり、授業を行い、教師として生徒向き合うことの難しさ、大変さを学んだ一方で、生徒と関わり合い、信頼関係を築き、日々を過ごすことがどれだけ楽しいのか経験できたように感じています。

私は、元々、教員志望でしたが周りが就活を必死にしている中、自分は本当に教員でいいのか、

迷うこともとても多くありましたが、この実習期間の貴重な経験のおかげで自分自身の気持ちに整理がつき改めて教員になりたいと感じられるようになりました。たった2週間という短い期間でしたが、自分にとってはとても濃密な本当に貴重な経験や学びが得られた実習期間でした。